

森づくり最前線

福島森林管理署 都路林事務所
森林官 加藤 貴明

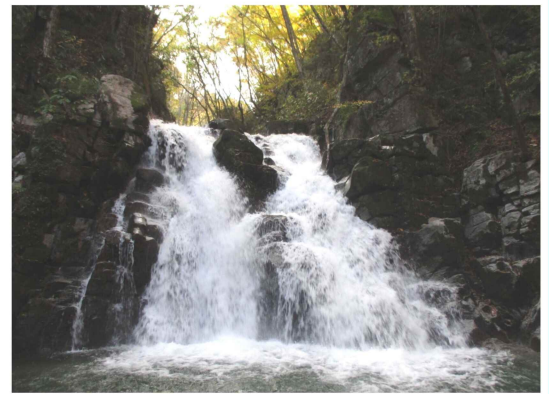
住めば都・・路 みやこ

私が勤務する都路森林事務所は、福島県東部、阿武隈(あぶくま)高地の中央部に位置する田村市都路町(旧都路村)にあります。

管内の国有林には阿武隈高地随一の滝、「行司ヶ滝(ぎょうじがたき)」があります。雄滝と雌滝、2つの滝があるのですが、雄滝の方は、写真には写っていませんが、滝壺がダムになっています。ダムからも水が滝のように流れており、全体的には2段に落ちる滝とも言えます。都路町観光協会の調査によると、現在の落差は約16m。大正時代



行司ヶ滝(雄滝)



行司ヶ滝(雌滝)

にダムが作られるまでは、25mほどの落差があったとのことでした。自然と人工物が融合した、ちょっと変わった趣の滝です。

行司ヶ滝への遊歩道は、むかし「浪江森林鉄道」へつながるトロッコが走っていた跡地です。

当時は、森林鉄道網を通じて、木炭などが盛んに首都圏へ運ばれ、都市部の生活を支えていました。

この度、その森林鉄道の歴史を発信するため、都路町観光協会と協力し、30m程ですが遊歩道の入口に当時のトロッコレールを復元しました。レールは本物ですので、往時に想いを馳せることができます。

さて、都路の森林において特



遊歩道(トロッコ跡)

徴的なものに、シイタケ原木を生産する「原木山」があります。コナラを主体に植栽された山で、民有林においては面積の半分以上を占めています。都路はかつて全国有数の原木産地で、国有林にも原木生産用の分収造林地が多数あります。

しかし、平成23年の原発事故により、現在も原木の出荷が制限されています。原木としては出荷できませんが、放射線量の基準をクリアすれば木材として販売できるので、国有林としても新たな活用方法を積極的に提案していきたいと考えています。



原木山の林内



トロッコレールの復元

住めば都の町、都路。地域の期待に応えられるよう、地元の方々と共に、山・地域の復興を進めていきたいと考えています。